

SUMMARY

No102519

今週は技術論に踏み込みました。

ポーカーからナンバーオペレーションのアナロジー(類似性)を引き出すことができます。

興味のある方に“Decide to Play Poker”(by Annie Duke/John Vorhaus)をご一読をお勧めします。ポーカーについて学習する必要はありません。数学的な思考について学ぶことができます。ナンバーオペレーションにおいて最も面白いことは同著の著者が語っていることと重なります。” what it means to make money on the math alone”(「数学だけで稼ぐということがどういう意味なのか」)を知るです。

↑ ナンバーオペレーションの「事業」への本質です。

今週のポイント掲げました。
レビューにお役立てください。

バリューチェーンの数字を読むときは下に掲げた“How to Read Numbers included in Value-Chain”を参考にしてその通りをご覧ください。

→ C/P, Sの大小の数字の関係を見付。

Sizing Your Bets on the Flop

“Before we get into the specifics of play on the flop, let’s talk again briefly about betting theory, and examine the logic of sizing our bets in a range between half-pot and three-quarters pot. As you’ll see, it rarely makes mathematical sense to stray far outside that range. On occasion, such as the river when there’s no more drawing, you might want to bet less than half the pot or more than the whole pot. But right now we’re talking about play on the flop and we’re considering how our bet sizes will affect the rest of the hand.”

[“Decide to Play Poker”(by Annie Duke/John Vorhaus)の Chapter 8 (第8章)]

「フロップでのサイズの調整」

フロップに関する詳細に入っていく前に、ベッティング理論についてもう一度簡単にお話します。2分の1から4分の3の間でのベットサイズの範囲のロジックについて詳しくみたいと思います。次第に見えてくると思いますが、この範囲の外では数学的意味をなすことは滅多にないのです。リバーでこれ以上カードが出ることがないようなケースにおいて、半分以下か全てをベットしたいと思うでしょう。でもこれはフロップについての話です。私たちはサイズが後のハンドにどう影響を与えるかについて考えます。

フロップに
限った操作
です。→ ナンバー
オペ
レーションの
ロジック
を見付は
下とい。

ハンドのサイズは資金をどれだけ投入するかの問題です。投入する資金は大事な“事業資金”として認識すべきです。そして、実践上大事なことは、それは“マージン”によって測ってはいけない(=「投入する資金の量をマージンに基づいて計測してはいけない。’)ということです。

→ CASH, CAFに着目!

Types of Hand

ナンバーオペレーションにおける基本的なハンドのタイプは大きく分けると以下の2つです。

(1)C-1/P-1

(2)C-1/C+1//P+1/P-1

(いずれも数量ベースの比率は 1:1。ただし、比率は変更することができる。)